

和歌山病院での実習を終えて



若松 大揮

今回、呼吸器内科での実習の一環として11月20日～21日の2日間、国立病院機構和歌山病院で実習を行わせていただきました。短い期間でしたが密度の濃い充実した実習内容であり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

結核に関するセミナーでは、近年ではまれな疾患ですが罹患すると非常に重篤な状態となり、周囲にも大きな被害を及ぼす結核について深く学ばせていただきました。結核の感染予防に用いられるN95マスクを実際に着用し、その息苦しさに大変驚きました。大学病院では見学できない結核の隔離病棟も見学させていただき、非常に貴重な体験となりました。

また、南方院長による胸部レントゲンの読影についての講義は、身体を用いて肺の区域を立体的な位置関係を把握する気管支体操と、教えていただいた読影のための基礎知識をもとに、自分の頭で考えて進める形式でした。解説も非常に理解しやすかったため大変勉強になりました。気管支体操は忘れないようにこれからも継続して行なっていこうと思います。

今回の実習で学ばせていただいたことをこれからの臨床実習に活かし、医師になるための糧としていきたいと存じ上げます。

最後になりましたが、今回の実習に関係していただきました、南方院長、駿田副院長、並びに和歌山病院のスタッフの皆様にご心から感謝を申し上げます。有難うございました。